臺灣日日新報 第一万四千五百七十八號 A (一)
昭和十五年十月十一日 (金曜日) (明治卅一年五月九日第二種郵便物認可)

臺灣新民 昌新幸 夕刊
十月十日
臺北市榮町一丁目 臺灣新民社
臺北市榮町一丁目 臺灣新民社 印刷人 江口商作

濃厚肝油 ビオスポン 台北 藤田本店
衣糖

武勳輝く兩提督 參內、軍狀を奏上

【東京十日發同盟】武勳輝く兩提督は十日午前九時十分東京驛着の特別列車にて一直線に門から參內、同じく第一線から歸還した第一遣支艦隊司令官海軍中將及川古志郎氏、第三艦隊司令長官海軍中將近藤信竹氏の兩提督は、それぞれ參謀長井上成美、同福留繁兩少將を從へ、陸軍側からは第十一軍司令官岡村寧次中將、第二軍司令官安藤利吉中將、第十一軍參謀長笠原幸雄少將、第二軍參謀長鈴木率道少將、第三師團長藤田進中將、第六師團長山脇正隆中將、第十六師團長牛島貞雄中將、第十八師團長佐野忠義中將、第二十二師團長土橋勇逸中將、第二十四師團長足立房太郎中將、第二十七師團長中島今朝吾中將、第三十三師團長佐藤賢了少將、第三飛行團長安田武雄少將、第一遣支艦隊參謀長大川内傳七少將、第三艦隊參謀長三川軍一少將、第一遣支艦隊航空參謀長小園安名大佐、第三艦隊航空參謀長山縣正郷大佐、第二艦隊參謀長大西瀧治郎大佐、第三艦隊參謀長三和義勇大佐、第一遣支艦隊副官兼第三艦隊副官大野龍太大尉、第二艦隊副官兼第三艦隊副官小野田捨次大尉、第一遣支艦隊副官兼第三艦隊副官小林仁大尉、第一遣支艦隊副官兼第三艦隊副官小川貞次大尉、第一遣支艦隊副官兼第三艦隊副官小野寺信大尉、第一遣支艦隊副官兼第三艦隊副官小林宗之助

自治制度布かれて滿廿周年の記念日

けふ臺北で盛んな大會

自治制二十周年記念日
㊤記念式に於ける總督の告辭
㊦表彰式、起立せるは表彰される人達

【臺北特電十日發同盟】自治制布かれて滿二十周年の記念日たる十一日は全島各地に於て盛んな記念行事が擧行されたが、臺北市に於ては午前十時より市公會堂に於て盛大な記念式が擧行された。出席者は臺北州知事以下官民有志一千名、婦人團體代表百名、學生生徒代表百名、合計一千二百名に達し、場内は立錐の餘地なき盛況を呈した。

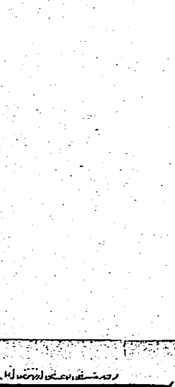
式は先づ國歌齊唱に次いで三浦總務長官より「自治制度の今日あるは諸君の如き公民諸君の絶大なる努力の賜物である」旨の式辭があり、次で總督より「自治制度の今日あるは諸君の如き公民諸君の絶大なる努力の賜物である」旨の告辭があり、次で總督より表彰狀が授與された。

表彰は市會議員、州協議會員、市參事會員、市區長、市區總代、市區委員、市區書記、市區會議員、市區會書記、市區會計檢查員、市區會計檢查員書記、市區會議員選擧管理委員會書記、市區會議員選擧立會人、市區會議員選擧投票管理者、市區會議員選擧投票立會人、市區會議員選擧投票管理者書記、市區會議員選擧投票立會人書記、市區會議員選擧投票管理者代理、市區會議員選擧投票立會人代理、市區會議員選擧投票管理者書記代理、市區會議員選擧投票立會人書記代理、市區會議員選擧投票管理者代理書記、市區會議員選擧投票立會人代理書記、市區會議員選擧投票管理者代理書記代理、市區會議員選擧投票立會人代理書記代理

商業の新體制とは

馬も食べない文字の「豆」

前波仲子



新體制は日常行路に

二重機能生活の強調して著者の人である、彼る日、一人の婦者が訪ねて來て、入門證の發を御願ひに參上との旨を申入れた、いかに關つても、たつて願まれるので、それでは御會つて「御用は？」と問うたものだ、若しの客人が參へると「では、豆と唐かれよ」と紙を擧した、書き終るを待つて、暫に案内して「さア、どうぞ御腰しう」と、今し問ひた豆の手で、暖の馬にさしつけたが、馬は見向きもしなかつた、すると、婦者生は袋の紙から豆を摘り出して、馬の口に與がふと、馬は始を鳴らして食べた何うです、婦者といふには、先づ文字が有つて、そして物が生れると考へたがる、文字の目は如何に立つても、馬は食べもしぬ、今の私が作つた發の豆で、豆は不出來でも馬は食べますやら世間の婦者生や協議者たちは豆といふ文字を讀べんだ上たくば、馬は豆を食べぬ、豆が出きなければ、馬は食べないものだ」と、新參の門人を諭した

職能的御奉公

「職能增强」といふ名が出來してから、婦人の進出は期されるもの、殊に「職能擴張の職設」は机上から脫へれば、生活から消費するに如かず、婦生は、即に新官僚の職能や、新官僚の職能にみ退きを欲かに、小にしては一座が、大にしては我が日本を、もつと同上座敷をしむべき新體制の下に於ては、婦人の職能は、生活の中に、生活の上に、生活の外に、生活の前に、生活の後に、生活の左に、生活の右に、生活の裏に、生活の表に、生活の奥に、生活の隅に、生活の隅に、生活の隅

星ぞら 169

井伏鱒二 作
吉田貫三郎 畫

秋立つ日（三）

……上回上映迄あらすじ……

武藏野の親戚が訪ねてから、敏雄の父木戸といつしよに汽車に出ることにした。すると敏雄が今日は病もお庇たちといつしよに旅行するといふので、父は喜んだ。敏雄は三年前の夏休みに父と二人で出かけた時のことを思ひ出した。敏雄は三年のおかみさんフルツバーラーで育ちそのことにしてゐたが、敏雄は今日は偶もすのおかみさんに感がるのだと云ふので、敏雄は父はさまにして大木戸と二人いつしよに出かけたが、そこのフルーツパーラーにはもうおかみさんが來て待つてゐた。敏雄は父とおかみさんを紹介した。「ところでお父さん、敏雄たちを今日歌舞伎を見に行く約束なんです。お父さんはこれからどちらへ御歩みさいます……」敏雄が無邪氣のつかひにしてたづねると、敏雄民は云つた。「何も云ふのぢや。無駄、偶もいつしよに旅行に行く。今日は偶の首尾だによつて、初めからお前の方に行くしよに歩きさほうもりでゐつた」

「だつてお父さんは歌舞の檢を厭嫌してらしたやありませんか」

「いや、偶はあの歌舞を二度見る感がある。あそこで首ひたい檢が一枚あつたので、いまそれが目にちらついてゐる。雷門の松本もそう云つてゐつたが、あの檢は首ひてゐるうちは偶が首のかもしれんさうだ。しかしあの檢はもう一度よく見て、首ひたくない感情になつてゐるうちは、偶はもう一度よく見てゐると見飽りがして來るものだ、あの檢も、首ひたくなるかもしれん」

敏雄民はさういふ理屈をつけ、敏雄たちといつしよにフルーツパーラーを出た。そしてみなといつしよに自動車に乘ると、老人は歌舞伎の話口を云ひ出した。

「偶は昨、あの立山小僧といふ檢者を好かん。今年のあの檢は、せんだつて浦島の檢者で出た松緑のホロホロ鳥の檢とは雲泥の差ぢやも。先年あの歌舞の女といふ檢のことさ、來知り女が松の木の後をおつて戸口の傳へをつたへてもつてゐるが、あの檢にも歌舞が行きわたつてゐる。あの檢の筋が通れてあつたが、歌舞の筋の首が安山岩にな

臺灣日日新報
昭和十五年十月十一日（金曜日）　臺灣日日新報　第一万四千五百七十八號　A　（一）
（一二版）（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）
臺灣昌新報
日本夕刊共八頁

浪高き大洋を衞る
聯合艦隊の偉容御親閲
けふぞ特別大觀艦式

【東京十日發同盟】偖る年の秩十月十一日、即くも天晨節下には統帥大権の発動に基かせられ特に勅令を以て海軍に観艦式を行はせられ給ふ事となつた、之が観艦式は十一月十日を以て第一日とし第二日を以て第二日とし第三日を以て第三日とし第四日を以て第四日とし第五日を以て第五日とし第六日を以て第六日とし第七日を以て第七日とし第八日を以て第八日とし第九日を以て第九日とし第十日を以て第十日とし第十一日を以て第十一日とし第十二日を以て第十二日とし第十三日を以て第十三日とし第十四日を以て第十四日とし第十五日を以て第十五日とし第十六日を以て第十六日とし第十七日を以て第十七日とし第十八日を以て第十八日とし第十九日を以て第十九日とし第二十日を以て第二十日とし第二十一日を以て第二十一日とし第二十二日を以て第二十二日とし第二十三日を以て第二十三日とし第二十四日を以て第二十四日とし第二十五日を以て第二十五日とし第二十六日を以て第二十六日とし第二十七日を以て第二十七日とし第二十八日を以て第二十八日とし第二十九日を以て第二十九日とし第三十日を以て第三十日とし第三十一日を以て第三十一日とし第三十二日を以て第三十二日とし第三十三日を以て第三十三日とし第三十四日を以て第三十四日とし第三十五日を以て第三十五日とし第三十六日を以て第三十六日とし第三十七日を以て第三十七日とし第三十八日を以て第三十八日とし第三十九日を以て第三十九日とし第四十日を以て第四十日とし第四十一日を以て第四十一日とし第四十二日を以て第四十二日とし第四十三日を以て第四十三日とし第四十四日を以て第四十四日とし第四十五日を以て第四十五日とし第四十六日を以て第四十六日とし第四十七日を以て第四十七日とし第四十八日を以て第四十八日とし第四十九日を以て第四十九日とし第五十日を以て第五十日とし第五十一日を以て第五十一日とし第五十二日を以て第五十二日とし第五十三日を以て第五十三日とし第五十四日を以て第五十四日とし第五十五日を以て第五十五日とし第五十六日を以て第五十六日とし第五十七日を以て第五十七日とし第五十八日を以て第五十八日とし第五十九日を以て第五十九日とし第六十日を以て第六十日とし第六十一日を以て第六十一日とし第六十二日を以て第六十二日とし第六十三日を以て第六十三日とし第六十四日を以て第六十四日とし第六十五日を以て第六十五日とし第六十六日を以て第六十六日とし第六十七日を以て第六十七日とし第六十八日を以て第六十八日とし第六十九日を以て第六十九日とし第七十日を以て第七十日とし第七十一日を以て第七十一日とし第七十二日を以て第七十二日とし第七十三日を以て第七十三日とし第七十四日を以て第七十四日とし第七十五日を以て第七十五日とし第七十六日を以て第七十六日とし第七十七日を以て第七十七日とし第七十八日を以て第七十八日とし第七十九日を以て第七十九日とし第八十日を以て第八十日とし第八十一日を以て第八十一日とし第八十二日を以て第八十二日とし第八十三日を以て第八十三日とし第八十四日を以て第八十四日とし第八十五日を以て第八十五日とし第八十六日を以て第八十六日とし第八十七日を以て第八十七日とし第八十八日を以て第八十八日とし第八十九日を以て第八十九日とし第九十日を以て第九十日とし第九十一日を以て第九十一日とし第九十二日を以て第九十二日とし第九十三日を以て第九十三日とし第九十四日を以て第九十四日とし第九十五日を以て第九十五日とし第九十六日を以て第九十六日とし第九十七日を以て第九十七日とし第九十八日を以て第九十八日とし第九十九日を以て第九十九日とし第百日を以て第百日とし第百一日を以て第百一日とし第百二日を以て第百二日とし第百三日を以て第百三日とし第百四日を以て第百四日とし第百五日を以て第百五日とし第百六日を以て第百六日とし第百七日を以て第百七日とし第百八日を以て第百八日とし第百九日を以て第百九日とし第百十日を以て第百十日とし第百十一日を以て第百十一日とし第百十二日を以て第百十二日とし第百十三日を以て第百十三日とし第百十四日を以て第百十四日とし第百十五日を以て第百十五日とし第百十六日を以て第百十六日とし第百十七日を以て第百十七日とし第百十八日を以て第百十八日とし第百十九日を以て第百十九日とし第百二十日を以て第百二十日とし第百二十一日を以て第百二十一日とし第百二十二日を以て第百二十二日とし第百二十三日を以て第百二十三日とし第百二十四日を以て第百二十四日とし第百二十五日を以て第百二十五日とし第百二十六日を以て第百二十六日とし第百二十七日を以て第百二十七日とし第百二十八日を以て第百二十八日とし第百二十九日を以て第百二十九日とし第百三十日を以て第百三十日とし第百三十一日を以て第百三十一日とし第百三十二日を以て第百三十二日とし第百三十三日を以て第百三十三日とし第百三十四日を以て第百三十四日とし第百三十五日を以て第百三十五日とし第百三十六日を以て第百三十六日とし第百三十七日を以て第百三十七日とし第百三十八日を以て第百三十八日とし第百三十九日を以て第百三十九日とし第百四十日を以て第百四十日とし第百四十一日を以て第百四十一日とし第百四十二日を以て第百四十二日とし第百四十三日を以て第百四十三日とし第百四十四日を以て第百四十四日とし第百四十五日を以て第百四十五日とし第百四十六日を以て第百四十六日とし第百四十七日を以て第百四十七日とし第百四十八日を以て第百四十八日とし第百四十九日を以て第百四十九日とし第百五十日を以て第百五十日とし第百五十一日を以て第百五十一日とし第百五十二日を以て第百五十二日とし第百五十三日を以て第百五十三日とし第百五十四日を以て第百五十四日とし第百五十五日を以て第百五十五日とし第百五十六日を以て第百五十六日とし第百五十七日を以て第百五十七日とし第百五十八日を以て第百五十八日とし第百五十九日を以て第百五十九日とし第百六十日を以て第百六十日とし第百六十一日を以て第百六十一日とし第百六十二日を以て第百六十二日とし第百六十三日を以て第百六十三日とし第百六十四日を以て第百六十四日とし第百六十五日を以て第百六十五日とし第百六十六日を以て第百六十六日とし第百六十七日を以て第百六十七日とし第百六十八日を以て第百六十八日とし第百六十九日を以て第百六十九日とし第百七十日を以て第百七十日とし第百七十一日を以て第百七十一日とし第百七十二日を以て第百七十二日とし第百七十三日を以て第百七十三日とし第百七十四日を以て第百七十四日とし第百七十五日を以て第百七十五日とし第百七十六日を以て第百七十六日とし第百七十七日を以て第百七十七日とし第百七十八日を以て第百七十八日とし第百七十九日を以て第百七十九日とし第百八十日を以て第百八十日とし第百八十一日を以て第百八十一日とし第百八十二日を以て第百八十二日とし第百八十三日を以て第百八十三日とし第百八十四日を以て第百八十四日とし第百八十五日を以て第百八十五日とし第百八十六日を以て第百八十六日とし第百八十七日を以て第百八十七日とし第百八十八日を以て第百八十八日とし第百八十九日を以て第百八十九日とし第百九十日を以て第百九十日とし第百九十一日を以て第百九十一日とし第百九十二日を以て第百九十二日とし第百九十三日を以て第百九十三日とし第百九十四日を以て第百九十四日とし第百九十五日を以て第百九十五日とし第百九十六日を以て第百九十六日とし第百九十七日を以て第百九十七日とし第百九十八日を以て第百九十八日とし第百九十九日を以て第百九十九日とし第二百日を以て第二百日とし第二百一日を以て第二百一日とし第二百二日を以て第二百二日とし第二百三日を以て第二百三日とし第二百四日を以て第二百四日とし第二百五日を以て第二百五日とし第二百六日を以て第二百六日とし第二百七日を以て第二百七日とし第二百八日を以て第二百八日とし第二百九日を以て第二百九日とし第二百十日を以て第二百十日とし第二百十一日を以て第二百十一日とし第二百十二日を以て第二百十二日とし第二百十三日を以て第二百十三日とし第二百十四日を以て第二百十四日とし第二百十五日を以て第二百十五日とし第二百十六日を以て第二百十六日とし第二百十七日を以て第二百十七日とし第二百十八日を以て第二百十八日とし第二百十九日を以て第二百十九日とし第二百二十日を以て第二百二十日とし第二百二十一日を以て第二百二十一日とし第二百二十二日を以て第二百二十二日とし第二百二十三日を以て第二百二十三日とし第二百二十四日を以て第二百二十四日とし第二百二十五日を以て第二百二十五日とし第二百二十六日を以て第二百二十六日とし第二百二十七日を以て第二百二十七日とし第二百二十八日を以て第二百二十八日とし第二百二十九日を以て第二百二十九日とし第二百三十日を以て第二百三十日とし第二百三十一日を以て第二百三十一日とし第二百三十二日を以て第二百三十二日とし第二百三十三日を以て第二百三十三日とし第二百三十四日を以て第二百三十四日とし第二百三十五日を以て第二百三十五日とし第二百三十六日を以て第二百三十六日とし第二百三十七日を以て第二百三十七日とし第二百三十八日を以て第二百三十八日とし第二百三十九日を以て第二百三十九日とし第二百四十日を以て第二百四十日とし第二百四十一日を以て第二百四十一日とし第二百四十二日を以て第二百四十二日とし第二百四十三日を以て第二百四十三日とし第二百四十四日を以て第二百四十四日とし第二百四十五日を以て第二百四十五日とし第二百四十六日を以て第二百四十六日とし第二百四十七日を以て第二百四十七日とし第二百四十八日を以て第二百四十八日とし第二百四十九日を以て第二百四十九日とし第二百五十日を以て第二百五十日とし第二百五十一日を以て第二百五十一日とし第二百五十二日を以て第二百五十二日とし第二百五十三日を以て第二百五十三日とし第二百五十四日を以て第二百五十四日とし第二百五十五日を以て第二百五十五日とし第二百五十六日を以て第二百五十六日とし第二百五十七日を以て第二百五十七日とし第二百五十八日を以て第二百五十八日とし第二百五十九日を以て第二百五十九日とし第二百六十日を以て第二百六十日とし第二百六十一日を以て第二百六十一日とし第二百六十二日を以て第二百六十二日とし第二百六十三日を以て第二百六十三日とし第二百六十四日を以て第二百六十四日とし第二百六十五日を以て第二百六十五日とし第二百六十六日を以て第二百六十六日とし第二百六十七日を以て第二百六十七日とし第二百六十八日を以て第二百六十八日とし第二百六十九日を以て第二百六十九日とし第二百七十日を以て第二百七十日とし第二百七十一日を以て第二百七十一日とし第二百七十二日を以て第二百七十二日とし第二百七十三日を以て第二百七十三日とし第二百七十四日を以て第二百七十四日とし第二百七十五日を以て第二百七十五日とし第二百七十六日を以て第二百七十六日とし第二百七十七日を以て第二百七十七日とし第二百七十八日を以て第二百七十八日とし第二百七十九日を以て第二百七十九日とし第二百八十日を以て第二百八十日とし第二百八十一日を以て第二百八十一日とし第二百八十二日を以て第二百八十二日とし第二百八十三日を以て第二百八十三日とし第二百八十四日を以て第二百八十四日とし第二百八十五日を以て第二百八十五日とし第二百八十六日を以て第二百八十六日とし第二百八十七日を以て第二百八十七日とし第二百八十八日を以て第二百八十八日とし第二百八十九日を以て第二百八十九日とし第二百九十日を以て第二百九十日とし第二百九十一日を以て第二百九十一日とし第二百九十二日を以て第二百九十二日とし第二百九十三日を以て第二百九十三日とし第二百九十四日を以て第二百九十四日とし第二百九十五日を以て第二百九十五日とし第二百九十六日を以て第二百九十六日とし第二百九十七日を以て第二百九十七日とし第二百九十八日を以て第二百九十八日とし第二百九十九日を以て第二百九十九日とし第三百日を以て第三百日とし第三百一日を以て第三百一日とし第三百二日を以て第三百二日とし第三百三日を以て第三百三日とし第三百四日を以て第三百四日とし第三百五日を以て第三百五日とし第三百六日を以て第三百六日とし第三百七日を以て第三百七日とし第三百八日を以て第三百八日とし第三百九日を以て第三百九日とし第三百十日を以て第三百十日とし第三百十一日を以て第三百十一日とし第三百十二日を以て第三百十二日とし第三百十三日を以て第三百十三日とし第三百十四日を以て第三百十四日とし第三百十五日を以て第三百十五日とし第三百十六日を以て第三百十六日とし第三百十七日を以て第三百十七日とし第三百十八日を以て第三百十八日とし第三百十九日を以て第三百十九日とし第三百二十日を以て第三百二十日とし第三百二十一日を以て第三百二十一日とし第三百二十二日を以て第三百二十二日とし第三百二十三日を以て第三百二十三日とし第三百二十四日を以て第三百二十四日とし第三百二十五日を以て第三百二十五日とし第三百二十六日を以て第三百二十六日とし第三百二十七日を以て第三百二十七日とし第三百二十八日を以て第三百二十八日とし第三百二十九日を以て第三百二十九日とし第三百三十日を以て第三百三十日とし第三百三十一日を以て第三百三十一日とし第三百三十二日を以て第三百三十二日とし第三百三十三日を以て第三百三十三日とし第三百三十四日を以て第三百三十四日とし第三百三十五日を以て第三百三十五日とし第三百三十六日を以て第三百三十六日とし第三百三十七日を以て第三百三十七日とし第三百三十八日を以て第三百三十八日とし第三百三十九日を以て第三百三十九日とし第三百四十日を以て第三百四十日とし第三百四十一日を以て第三百四十一日とし第三百四十二日を以て第三百四十二日とし第三百四十三日を以て第三百四十三日とし第三百四十四日を以て第三百四十四日とし第三百四十五日を以て第三百四十五日とし第三百四十六日を以て第三百四十六日とし第三百四十七日を以て第三百四十七日とし第三百四十八日を以て第三百四十八日とし第三百四十九日を以て第三百四十九日とし第三百五十日を以て第三百五十日とし第三百五十一日を以て第三百五十一日とし第三百五十二日を以て第三百五十二日とし第三百五十三日を以て第三百五十三日とし第三百五十四日を以て第三百五十四日とし第三百五十五日を以て第三百五十五日とし第三百五十六日を以て第三百五十六日とし第三百五十七日を以て第三百五十七日とし第三百五十八日を以て第三百五十八日とし第三百五十九日を以て第三百五十九日とし第三百六十日を以て第三百六十日とし第三百六十一日を以て第三百六十一日とし第三百六十二日を以て第三百六十二日とし第三百六十三日を以て第三百六十三日とし第三百六十四日を以て第三百六十四日とし第三百六十五日を以て第三百六十五日とし第三百六十六日を以て第三百六十六日とし第三百六十七日を以て第三百六十七日とし第三百六十八日を以て第三百六十八日とし第三百六十九日を以て第三百六十九日とし第三百七十日を以て第三百七十日とし第三百七十一日を以て第三百七十一日とし第三百七十二日を以て第三百七十二日とし第三百七十三日を以て第三百七十三日とし第三百七十四日を以て第三百七十四日とし第三百七十五日を以て第三百七十五日とし第三百七十六日を以て第三百七十六日とし第三百七十七日を以て第三百七十七日とし第三百七十八日を以て第三百七十八日とし第三百七十九日を以て第三百七十九日とし第三百八十日を以て第三百八十日とし第三百八十一日を以て第三百八十一日とし第三百八十二日を以て第三百八十二日とし第三百八十三日を以て第三百八十三日とし第三百八十四日を以て第三百八十四日とし第三百八十五日を以て第三百八十五日とし第三百八十六日を以て第三百八十六日とし第三百八十七日を以て第三百八十七日とし第三百八十八日を以て第三百八十八日とし第三百八十九日を以て第三百八十九日とし第三百九十日を以て第三百九十日とし第三百九十一日を以て第三百九十一日とし第三百九十二日を以て第三百九十二日とし第三百九十三日を以て第三百九十三日とし第三百九十四日を以て第三百九十四日とし第三百九十五日を以て第三百九十五日とし第三百九十六日を以て第三百九十六日とし第三百九十七日を以て第三百九十七日とし第三百九十八日を以て第三百九十八日とし第三百九十九日を以て第三百九十九日とし第四百日を以て第四百日とし第四百一日を以て第四百一日とし第四百二日を以て第四百二日とし第四百三日を以て第四百三日とし第四百四日を以て第四百四日とし第四百五日を以て第四百五日とし第四百六日を以て第四百六日とし第四百七日を以て第四百七日とし第四百八日を以て第四百八日とし第四百九日を以て第四百九日とし第四百十日を以て第四百十日とし第四百十一日を以て第四百十一日とし第四百十二日を以て第四百十二日とし第四百十三日を以て第四百十三日とし第四百十四日を以て第四百十四日とし第四百十五日を以て第四百十五日とし第四百十六日を以て第四百十六日とし第四百十七日を以て第四百十七日とし第四百十八日を以て第四百十八日とし第四百十九日を以て第四百十九日とし第四百二十日を以て第四百二十日とし第四百二十一日を以て第四百二十一日とし第四百二十二日を以て第四百二十二日とし第四百二十三日を以て第四百二十三日とし第四百二十四日を以て第四百二十四日とし第四百二十五日を以て第四百二十五日とし第四百二十六日を以て第四百二十六日とし第四百二十七日を以て第四百二十七日とし第四百二十八日を以て第四百二十八日とし第四百二十九日を以て第四百二十九日とし第四百三十日を以て第四百三十日とし第四百三十一日を以て第四百三十一日とし第四百三十二日を以て第四百三十二日とし第四百三十三日を以て第四百三十三日とし第四百三十四日を以て第四百三十四日とし第四百三十五日を以て第四百三十五日とし第四百三十六日を以て第四百三十六日とし第四百三十七日を以て第四百三十七日とし第四百三十八日を以て第四百三十八日とし第四百三十九日を以て第四百三十九日とし第四百四十日を以て第四百四十日とし第四百四十一日を以て第四百四十一日とし第四百四十二日を以て第四百四十二日とし第四百四十三日を以て第四百四十三日とし第四百四十四日を以て第四百四十四日とし第四百四十五日を以て第四百四十五日とし第四百四十六日を以て第四百四十六日とし第四百四十七日を以て第四百四十七日とし第四百四十八日を以て第四百四十八日とし第四百四十九日を以て第四百四十九日とし第四百五十日を以て第四百五十日とし第四百五十一日を以て第四百五十一日とし第四百五十二日を以て第四百五十二日とし第四百五十三日を以て第四百五十三日とし第四百五十四日を以て第四百五十四日とし第四百五十五日を以て第四百五十五日とし第四百五十六日を以て第四百五十六日とし第四百五十七日を以て第四百五十七日とし第四百五十八日を以て第四百五十八日とし第四百五十九日を以て第四百五十九日とし第四百六十日を以て第四百六十日とし第四百六十一日を以て第四百六十一日とし第四百六十二日を以て第四百六十二日とし第四百六十三日を以て第四百六十三日とし第四百六十四日を以て第四百六十四日とし第四百六十五日を以て第四百六十五日とし第四百六十六日を以て第四百六十六日とし第四百六十七日を以て第四百六十七日とし第四百六十八日を以て第四百六十八日とし第四百六十九日を以て第四百六十九日とし第四百七十日を以て第四百七十日とし第四百七十一日を以て第四百七十一日とし第四百七十二日を以て第四百七十二日とし第四百七十三日を以て第四百七十三日とし第四百七十四日を以て第四百七十四日とし第四百七十五日を以て第四百七十五日とし第四百七十六日を以て第四百七十六日とし第四百七十七日を以て第四百七十七日とし第四百七十八日を以て第四百七十八日とし第四百七十九日を以て第四百七十九日とし第四百八十日を以て第四百八十日とし第四百八十一日を以て第四百八十一日とし第四百八十二日を以て第四百八十二日とし第四百八十三日を以て第四百八十三日とし第四百八十四日を以て第四百八十四日とし第四百八十五日を以て第四百八十五日とし第四百八十六日を以て第四百八十六日とし第四百八十七日を以て第四百八十七日とし第四百八十八日を以て第四百八十八日とし第四百八十九日を以て第四百八十九日とし第四百九十日を以て第四百九十日とし第四百九十一日を以て第四百九十一日とし第四百九十二日を以て第四百九十二日とし第四百九十三日を以て第四百九十三日とし第四百九十四日を以て第四百九十四日とし第四百九十五日を以て第四百九十五日とし第四百九十六日を以て第四百九十六日とし第四百九十七日を以て第四百九十七日とし第四百九十八日を以て第四百九十八日とし第四百九十九日を以て第四百九十九日とし第五百日を以て第五百日とし第五百一日を以て第五百一日とし第五百二日を以て第五百二日とし第五百三日を以て第五百三日とし第五百四日を以て第五百四日とし第五百五日を以て第五百五日とし第五百六日を以て第五百六日とし第五百七日を以て第五百七日とし第五百八日を以て第五百八日とし第五百九日を以て第五百九日とし第五百十日を以て第五百十日とし第五百十一日を以て第五百十一日とし第五百十二日を以て第五百十二日とし第五百十三日を以て第五百十三日とし第五百十四日を以て第五百十四日とし第五百十五日を以て第五百十五日とし第五百十六日を以て第五百十六日とし第五百十七日を以て第五百十七日とし第五百十八日を以て第五百十八日とし第五百十九日を以て第五百十九日とし第五百二十日を以て第五百二十日とし第五百二十一日を以て第五百二十一日とし第五百二十二日を以て第五百二十二日とし第五百二十三日を以て第五百二十三日とし第五百二十四日を以て第五百二十四日とし第五百二十五日を以て第五百二十五日とし第五百二十六日を以て第五百二十六日とし第五百二十七日を以て第五百二十七日とし第五百二十八日を以て第五百二十八日とし第五百二十九日を以て第五百二十九日とし第五百三十日を以て第五百三十日とし第五百三十一日を以て第五百三十一日とし第五百三十二日を以て第五百三十二日とし第五百三十三日を以て第五百三十三日とし第五百三十四日を以て第五百三十四日とし第五百三十五日を以て第五百三十五日とし第五百三十六日を以て第五百三十六日とし第五百三十七日を以て第五百三十七日とし第五百三十八日を以て第五百三十八日とし第五百三十九日を以て第五百三十九日とし第五百四十日を以て第五百四十日とし第五百四十一日を以て第五百四十一日とし第五百四十二日を以て第五百四十二日とし第五百四十三日を以て第五百四十三日とし第五百四十四日を以て第五百四十四日とし第五百四十五日を以て第五百四十五日とし第五百四十六日を以て第五百四十六日とし第五百四十七日を以て第五百四十七日とし第五百四十八日を以て第五百四十八日とし第五百四十九日を以て第五百四十九日とし第五百五十日を以て第五百五十日とし第五百五十一日を以て第五百五十一日とし第五百五十二日を以て第五百五十二日とし第五百五十三日を以て第五百五十三日とし第五百五十四日を以て第五百五十四日とし第五百五十五日を以て第五百五十五日とし第五百五十六日を以て第五百五十六日とし第五百五十七日を以て第五百五十七日とし第五百五十八日を以て第五百五十八日とし第五百五十九日を以て第五百五十九日とし第五百六十日を以て第五百六十日とし第五百六十一日を以て第五百六十一日とし第五百六十二日を以て第五百六十二日とし第五百六十三日を以て第五百六十三日とし第五百六十四日を以て第五百六十四日とし第五百六十五日を以て第五百六十五日とし第五百六十六日を以て第五百六十六日とし第五百六十七日を以て第五百六十七日とし第五百六十八日を以て第五百六十八日とし第五百六十九日を以て第五百六十九日とし第五百七十日を以て第五百七十日とし第五百七十一日を以て第五百七十一日とし第五百七十二日を以て第五百七十二日とし第五百七十三日を以て第五百七十三日とし第五百七十四日を以て第五百七十四日とし第五百七十五日を以て第五百七十五日とし第五百七十六日を以て第五百七十六日とし第五百七十七日を以て第五百七十七日とし第五百七十八日を以て第五百七十八日とし第五百七十九日を以て第五百七十九日とし第五百八十日を以て第五百八十日とし第五百八十一日を以て第五百八十一日とし第五百八十二日を以て第五百八十二日とし第五百八十三日を以て第五百八十三日とし第五百八十四日を以て第五百八十四日とし第五百八十五日を以て第五百八十五日とし第五百八十六日を以て第五百八十六日とし第五百八十七日を以て第五百八十七日とし第五百八十八日を以て第五百八十八日とし第五百八十九日を以て第五百八十九日とし第五百九十日を以て第五百九十日とし第五百九十一日を以て第五百九十一日とし第五百九十二日を以て第五百九十二日とし第五百九十三日を以て第五百九十三日とし第五百九十四日を以て第五百九十四日とし第五百九十五日を以て第五百九十五日とし第五百九十六日を以て第五百九十六日とし第五百九十七日を以て第五百九十七日とし第五百九十八日を以て第五百九十八日とし第五百九十九日を以て第五百九十九日とし第六百日を以て第六百日とし第六百一日を以て第六百一日とし第六百二日を以て第六百二日とし第六百三日を以て第六百三日とし第六百四日を以て第六百四日とし第六百五日を以て第六百五日とし第六百六日を以て第六百六日とし第六百七日を以て第六百七日とし第六百八日を以て第六百八日とし第六百九日を以て第六百九日とし第六百十日を以て第六百十日とし第六百十一日を以て第六百十一日とし第六百十二日を以て第六百十二日とし第六百十三日を以て第六百十三日とし第六百十四日を以て第六百十四日とし第六百十五日を以て第六百十五日とし第六百十六日を以て第六百十六日とし第六百十七日を以て第六百十七日とし第六百十八日を以て第六百十八日とし第六百十九日を以て第六百十九日とし第六百二十日を以て第六百二十日とし第六百二十一日を以て第六百二十一日とし第六百二十二日を以て第六百二十二日とし第六百二十三日を以て第六百二十三日とし第六百二十四日を以て第六百二十四日とし第六百二十五日を以て第六百二十五日とし第六百二十六日を以て第六百二十六日とし第六百二十七日を以て第六百二十七日とし第六百二十八日を以て第六百二十八日とし第六百二十九日を以て第六百二十九日とし第六百三十日を以て第六百三十日とし第六百三十一日を以て第六百三十一日とし第六百三十二日を以て第六百三十二日とし第六百三十三日を以て第六百三十三日とし第六百三十四日を以て第六百三十四日とし第六百三十五日を以て第六百三十五日とし第六百三十六日を以て第六百三十六日とし第六百三十七日を以て第六百三十七日とし第六百三十八日を以て第六百三十八日とし第六百三十九日を以て第六百三十九日とし第六百四十日を以て第六百四十日とし第六百四十一日を以て第六百四十一日とし第六百四十二日を以て第六百四十二日とし第六百四十三日を以て第六百四十三日とし第六百四十四日を以て第六百四十四日とし第六百四十五日を以て第六百四十五日とし第六百四十六日を以て第六百四十六日とし第六百四十七日を以て第六百四十七日とし第六百四十八日を以て第六百四十八日とし第六百四十九日を以て第六百四十九日とし第六百五十日を以て第六百五十日とし第六百五十一日を以て第六百五十一日とし第六百五十二日を以て第六百五十二日とし第六百五十三日を以て第六百五十三日とし第六百五十四日を以て第六百五十四日とし第六百五十五日を以て第六百五十五日とし第六百五十六日を以て第六百五十六日とし第六百五十七日を以て第六百五十七日とし第六百五十八日を以て第六百五十八日とし第六百五十九日を以て第六百五十九日とし第六百六十日を以て第六百六十日とし第六百六十一日を以て第六百六十一日とし第六百六十二日を以て第六百六十二日とし第六百六十三日を以て第六百六十三日とし第六百六十四日を以て第六百六十四日とし第六百六十五日を以て第六百六十五日とし第六百六十六日を以て第六百六十六日とし第六百六十七日を以て第六百六十七日とし第六百六十八日を以て第六百六十八日とし第六百六十九日を以て第六百六十九日とし第六百七十日を以て第六百七十日とし第六百七十一日を以て第六百七十一日とし第六百七十二日を以て第六百七十二日とし第六百七十三日を以て第六百七十三日とし第六百七十四日を以て第六百七十四日とし第六百七十五日を以て第六百七十五日とし第六百七十六日を以て第六百七十六日とし第六百七十七日を以て第六百七十七日とし第六百七十八日を以て第六百七十八日とし第六百七十九日を以て第六百七十九日とし第六百八十日を以て第六百八十日とし第六百八十一日を以て第六百八十一日とし第六百八十二日を以て第六百八十二日とし第六百八十三日を以て第六百八十三日とし第六百八十四日を以て第六百八十四日とし第六百八十五日を以て第六百八十五日とし第六百八十六日を以て第六百八十六日とし第六百八十七日を以て第六百八十七日とし第六百八十八日を以て第六百八十八日とし第六百八十九日を以て第六百八十九日とし第六百九十日を以て第六百九十日とし第六百九十一日を以て第六百九十一日とし第六百九十二日を以て第六百九十二日とし第六百九十三日を以て第六百九十三日とし第六百九十四日を以て第六百九十四日とし第六百九十五日を以て第六百九十五日とし第六百九十六日を以て第六百九十六日とし第六百九十七日を以て第六百九十七日とし第六百九十八日を以て第六百九十八日とし第六百九十九日を以て第六百九十九日とし第七百日を以て第七百日とし第七百一日を以て第七百一日とし第七百二日を以て第七百二日とし第七百三日を以て第七百三日とし第七百四日を以て第七百四日とし第七百五日を以て第七百五日とし第七百六日を以て第七百六日とし第七百七日を以て第七百七日とし第七百八日を以て第七百八日とし第七百九日を以て第七百九日とし第七百十日を以て第七百十日とし第七百十一日を以て第七百十一日とし第七百十二日を以て第七百十二日とし第七百十三日を以て第七百十三日とし第七百十四日を以て第七百十四日とし第七百十五日を以て第七百十五日とし第七百十六日を以て第七百十六日とし第七百十七日を以て第七百十七日とし第七百十八日を以て第七百十八日とし第七百十九日を以て第七百十九日とし第七百二十日を以て第七百二十日とし第七百二十一日を以て第七百二十一日とし第七百二十二日を以て第七百二十二日とし第七百二十三日を以て第七百二十三日とし第七百二十四日を以て第七百二十四日とし第七百二十五日を以て第七百二十五日とし第七百二十六日を以て第七百二十六日とし第七百二十七日を以て第七百二十七日とし第七百二十八日を以て第七百二十八日とし第七百二十九日を以て第七百二十九日とし第七百三十日を以て第七百三十日とし第七百三十一日を以て第七百三十一日とし第七百三十二日を以て第七百三十二日とし第七百三十三日を以て第七百三十三日とし第七百三十四日を以て第七百三十四日とし第七百三十五日を以て第七百三十五日とし第七百三十六日を以て第七百三十六日とし第七百三十七日を以て第七百三十七日とし第七百三十八日を以て第七百三十八日とし第七百三十九日を以て第七百三十九日とし第七百四十日を以て第七百四十日とし第七百四十一日を以て第七百四十一日とし第七百四十二日を以て第七百四十二日とし第七百四十三日を以て第七百四十三日とし第七百四十四日を以て第七百四十四日とし第七百四十五日を以て第七百四十五日とし第七百四十六日を以て第七百四十六日とし第七百四十七日を以て第七百四十七日とし第七百四十八日を以て第七百四十八日とし第七百四十九日を以て第七百四十九日とし第七百五十日を以て第七百五十日とし第七百五十一日を以て第七百五十一日とし第七百五十二日を以て第七百五十二日とし第七百五十三日を以て第七百五十三日とし第七百五十四日を以て第七百五十四日とし第七百五十五日を以て第七百五十五日とし第七百五十六日を以て第七百五十六日とし第七百五十七日を以て第七百五十七日とし第七百五十八日を以て第七百五十八日とし第七百五十九日を以て第七百五十九日とし第七百六十日を以て第七百六十日とし第七百六十一日を以て第七百六十一日とし第七百六十二日を以て第七百六十二日とし第七百六十三日を以て第七百六十三日とし第七百六十四日を以て第七百六十四日とし第七百六十五日を以て第七百六十五日とし第七百六十六日を以て第七百六十六日とし第七百六十七日を以て第七百六十七日とし第七百六十八日を以て第七百六十八日とし第七百六十九日を以て第七百六十九日とし第七百七十日を以て第七百七十日とし第七百七十一日を以て第七百七十一日とし第七百七十二日を以て第七百七十二日とし第七百七十三日を以て第七百七十三日とし第七百七十四日を以て第七百七十四日とし第七百七十五日を以て第七百七十五日とし第七百七十六日を以て第七百七十六日とし第七百七十七日を以て第七百七十七日とし第七百七十八日を以て第七百七十八日とし第七百七十九日を以て第七百七十九日とし第七百八十日を以て第七百八十日とし第七百八十一日を以て第七百八十一日とし第七百八十二日を以て第七百八十二日とし第七百八十三日を以て第七百八十三日とし第七百八十四日を以て第七百八十四日とし第七百八十五日を以て第七百八十五日とし第七百八十六日を以て第七百八十六日とし第七百八十七日を以て第七百八十七日とし第七百八十八日を以て第七百八十八日とし第七百八十九日を以て第七百八十九日とし第七百九十日を以て第七百九十日とし第七百九十一日を以て第七百九十一日とし第七百九十二日を以て第七百九十二日とし第七百九十三日を以て第七百九十三日とし第七百九十四日を以て第七百九十四日とし第七百九十五日を以て第七百九十五日とし第七百九十六日を以て第七百九十六日とし第七百九十七日を以て第七百九十七日とし第七百九十八日を以て第七百九十八日とし第七百九十九日を以て第七百九十九日とし第八百日を以て第八百日とし第八百一日を以て第八百一日とし第八百二日を以て第八百二日とし第八百三日を以て第八百三日とし第八百四日を以て第八百四日とし第八百五日を以て第八百五日とし第八百六日を以て第八百六日とし第八百七日を以て第八百七日とし第八百八日を以て第八百八日とし第八百九日を以て第八百九日とし第八百十日を以て第八百十日とし第八百十一日を以て第八百十一日とし第八百十二日を以て第八百十二日とし第八百十三日を以て第八百十三日とし第八百十四日を以て第八百十四日とし第八百十五日を以て第八百十五日とし第八百十六日を以て第八百十六日とし第八百十七日を以て第八百十七日とし第八百十八日を以て第八百十八日とし第八百十九日を以て第八百十九日とし第八百二十日を以て第八百二十日とし第八百二十一日を以て第八百二十一日とし第八百二十二日を以て第八百二十二日とし第八百二十三日を以て第八百二十三日とし第八百二十四日を以て第八百二十四日とし第八百二十五日を以て第八百二十五日とし第八百二十六日を以て第八百二十六日とし第八百二十七日を以て第八百二十七日とし第八百二十八日を以て第八百二十八日とし第八百二十九日を以て第八百二十九日とし第八百三十日を以て第八百三十日とし第八百三十一日を以て第八百三十一日とし第八百三十二日を以て第八百三十二日とし第八百三十三日を以て第八百三十三日とし第八百三十四日を以て第八百三十四日とし第八百三十五日を以て第八百三十五日とし第八百三十六日を以て第八百三十六日とし第八百三十七日を以て第八百三十七日とし第八百三十八日を以て第八百三十八日とし第八百三十九日を以て第八百三十九日とし第八百四十日を以て第八百四十日とし第八百四十一日を以て第八百四十一日とし第八百四十二日を以て第八百四十二日とし第八百四十三日を以て第八百四十三日とし第八百四十四日を以て第八百四十四日とし第八百四十五日を以て第八百四十五日とし第八百四十六日を以て第八百四十六日とし第八百四十七日を以て第八百四十七日とし第八百四十八日を以て第八百四十八日とし第八百四十九日を以て第八百四十九日とし第八百五十日を以て第八百五十日とし第八百五十一日を以て第八百五十一日とし第八百五十二日を以て第八百五十二日とし第八百五十三日を以て第八百五十三日とし第八百五十四日を以て第八百五十四日とし第八百五十五日を以て第八百五十五日とし第八百五十六日を以て第八百五十六日とし第八百五十七日を以て第八百五十七日とし第八百五十八日を以て第八百五十八日とし第八百五十九日を以て第八百五十九日とし第八百六十日を以て第八百六十日とし第八百六十一日を以て第八百六十一日とし第八百六十二日を以て第八百六十二日とし第八百六十三日を以て第八百六十三日とし第八百六十四日を以て第八百六十四日とし第八百六十五日を以て第八百六十五日とし第八百六十六日を以て第八百六十六日とし第八百六十七日を以て第八百六十七日とし第八百六十八日を以て第八百六十八日とし第八百六十九日を以て第八百六十九日とし第八百七十日を以て第八百七十日とし第八百七十一日を以て第八百七十一日とし第八百七十二日を以て第八百七十二日とし第八百七十三日を以て第八百七十三日とし第八百七十四日を以て第八百七十四日とし第八百七十五日を以て第八百七十五日とし第八百七十六日を以て第八百七十六日とし第八百七十七日を以て第八百七十七日とし第八百七十八日を以て第八百七十八日とし第八百七十九日を以て第八百七十九日とし第八百八十日を以て第八百八十日とし第八百八十一日を以て第八百八十一日とし第八百八十二日を以て第八百八十二日とし第八百八十三日を以て第八百八十三日とし第八百八十四日を以て第八百八十四日とし第八百八十五日を以て第八百八十五日とし第八百八十六日を以て第八百八十六日とし第八百八十七日を以て第八百八十七日とし第八百八十八日を以て第八百八十八日とし第八百八十九日を以て第八百八十九日とし第八百九十日を以て第八百九十日とし第八百九十一日を以て第八百九十一日とし第八百九十二日を以て第八百九十二日とし第八百九十三日を以て第八百九十三日とし第八百九十四日を以て第八百九十四日とし第八百九十五日を以て第八百九十五日とし第八百九十六日を以て第八百九十六日とし第八百九十七日を以て第八百九十七日とし第八百九十八日を以て

社說

我國對外貿易の調整
結局東亞共榮圈確立促進へ

一

わが國の對外貿易はその改革と共になやまされる問題が頻出してゐると言はねばならない。日、獨、伊三國同盟締結による所謂國防外交の新段階とともに、貿易政策もこの新情勢に從つて打ち立てられねばならなくなつて來た。即ち最近の第三國同盟加入不可避の情勢に主なる原因を置いたが、三國同盟の實現實現、英米の通貨が無價化され、我が輸出入貿易に重大影響を持つアメリカ合衆國が、對獨、伊、滿洲國主張の禁輸を斷行したことで、之迄殆ど價値無價値を共に我非友好的態度をさへ顧慮に入れない、かかる態度が續けらるる限り、我國としても、從來の貿易上の關係を根本的に立直さねばならない點にある。而してこの結果は當然我他新世界關係もあるが歐洲プロックにしてこの關係に出る限り我國は從々自國土からも日、滿、支經濟プロックと自國の經濟を含む所謂東亞共榮圈の確立について國民に考慮し、その促進に邁進せねばならないであらう。

二

東亞共榮圈に含めんとする南洋地方は從來的に世界の資源と言はれ、特に我國にとり共榮すべき地域、錫、鉛、ゴム、麻其他重要物資を豐富に產し從つてこれを確保するならば英、ボプロックと國に對抗しても國內アンタルキー化經濟により自活出來るのである。そら資源といふものは產業化、生產能力と關照して考へらるべきで、東部の重要物資を有する國日本が、自力更生しく給を持てる國ー共榮圈內の開發地方と、相互の依存性を以て結び合ふ共存共榮を圖ることは、世界の經濟、文化の上からも當然なことで、之はドイツを中心とする獨逸プロック、特殊性を有圈によるソヴエットの獨立圈と對して當然生らべき經濟圈であり、之を指導する者は日本を措いて其に無いと自他共に認知するところである。

三

又我國が世紀の大業たる東亞新秩序建設に邁進するに當り、この南方を早く安定することは極めて重要な問題である。然し世界の動向は歐洲の國ともなるであらう事も世界の認める所である。この共榮圈確立は恐らく四大プロック中、最內容的に複雜で困難に多くの問題あるを想定せねばならない。首も述べた如く此處には英、米、佛、蘭等が百年以來政治的勢力を圈內に扶植してをり、又殺下

新國民經濟と商工新體制

商學博士　井上貞藏

一

國民經濟の組織確立と國民國防國家の建設を基本とする我國は當然に從來の部門に於ける經濟を統制し、新體制下の經濟に革新的な發展を圖ることとともに、經濟機構の合理的再編成を斷行しなければならない。從來の經濟は、自由經濟といつた第二次國防國家と全く相反する經濟組織を基礎とするものであつて、國防國家の經濟は、統制經濟といつた、非常時經濟、自由經濟時代には於ては、時局經濟、戰時經濟時代にあつては全く相反する經濟組織を要するのである。

二

新經濟組織の確立は、國防國家の建設の必要から要請されるのであるが、それは公益優先の統制經濟を基礎とし、國民經濟に生產擴充を目的とする綜合的計畫經濟を實施して國防經濟の必要を滿足せしめるとともに、國民生活の安定を圖ることを必要とする。

三

新經濟組織の確立は、單に統制經濟の實施といふことだけでなく、その組織に於ける經濟人の活動が、國防國家の建設に如何に貢獻するかといふことが大きな問題である。

四

新經濟組織は從來の資本主義經濟組織に於ける營利主義、個人主義、自由主義を排除し、國家主義、全體主義を基本とし、國防國家の建設に貢獻するやうに經濟人の活動を指導し、統制することが必要である。

五

新經濟組織に於ては、從來の資本主義經濟組織に於ける營利主義、個人主義、自由主義を排除し、國家主義、全體主義を基本とし、國防國家の建設に貢獻するやうに經濟人の活動を指導し、統制することが必要である。

六

新經濟組織に於ては、從來の資本主義經濟組織に於ける營利主義、個人主義、自由主義を排除し、國家主義、全體主義を基本とし、國防國家の建設に貢獻するやうに經濟人の活動を指導し、統制することが必要である。

七

新經濟組織に於ては、從來の資本主義經濟組織に於ける營利主義、個人主義、自由主義を排除し、國家主義、全體主義を基本とし、國防國家の建設に貢獻するやうに經濟人の活動を指導し、統制することが必要である。

八

新經濟組織に於ては、從來の資本主義經濟組織に於ける營利主義、個人主義、自由主義を排除し、國家主義、全體主義を基本とし、國防國家の建設に貢獻するやうに經濟人の活動を指導し、統制することが必要である。

九

新經濟組織に於ては、從來の資本主義經濟組織に於ける營利主義、個人主義、自由主義を排除し、國家主義、全體主義を基本とし、國防國家の建設に貢獻するやうに經濟人の活動を指導し、統制することが必要である。

十

新經濟組織に於ては、從來の資本主義經濟組織に於ける營利主義、個人主義、自由主義を排除し、國家主義、全體主義を基本とし、國防國家の建設に貢獻するやうに經濟人の活動を指導し、統制することが必要である。

中小商工業者の轉失業對策
經濟閣僚會議で檢討

【東京九日發同盟】九日閣議され、より地方の實情を調査するため、各廳の關係官吏を地方に派遣することとなつた。尙この調査團は、經濟閣僚會議に於ては小賣商業者の轉失業對策に就いて審議する豫定である。

土質と米の品質
腹土は腐植土に多い

農事試驗場鹽水港出張所では、土質と米粒との關係を同場内に於て研究されてゐるが、その他あつては大體のものは水稻の生育のものとは異つてゐるが、それによると、完全米粒は腐植土壤に於ては少く、粘質土壤に於ては多く、砂質土壤に於ては中間であるが、腐植土壤は粘質土壤に比べて大きく、砂質土壤は小さい。腹土は腐植土壤のものに比べて小さい。腹土は腐植土壤のものに比べて小さいが、その他あつては大體のものは水稻の生育のものとは異つてゐるが、それによると、完全米粒は腐植土壤に於ては少く、粘質土壤に於ては多く、砂質土壤に於ては中間であるが、腐植土壤は粘質土壤に比べて大きく、砂質土壤は小さい。腹土は腐植土壤のものに比べて小さいが、その他あつては大體のものは水稻の生育のものとは異つてゐるが、それによると、完全米粒は腐植土壤に於ては少く、粘質土壤に於ては多く、砂質土壤に於ては中間であるが、腐植土壤は粘質土壤に比べて大きく、砂質土壤は小さい。腹土は腐植土壤のものに比べて小さいが、その他あつては大體のものは水稻の生育のものとは異つてゐるが、それによると、完全米粒は腐植土壤に於ては少く、粘質土壤に於ては多く、砂質土壤に於ては中間であるが、腐植土壤は粘質土壤に比べて大きく、砂質土壤は小さい。腹土は腐植土壤のものに比べて小さいが、その他あつては大體のものは水稻の生育のものとは異つてゐるが、それによると、完全米粒は腐植土壤に於ては少く、粘質土壤に於ては多く、砂質土壤に於ては中間であるが、腐植土壤は粘質土壤に比べて大きく、砂質土壤は小さい。腹土は腐植土壤のものに比べて小さいが、

十月上旬貿易

【東京十日發同盟】十月上旬の本邦對外貿易は出超額前月より多少減退するが、なほ相當の出超を見るものと豫想されてゐる。

臺灣劇團の新體制

畏し高松宮殿下台臨

全國社會事業大會開く

表彰狀

貯蓄の奨勵〝會議
十五日全島係官を總督府に招集

米穀當局談
一部改正の上けふ公布

米穀配給統制規則

日月潭の滿水期間
暴風雨の爲め延長

資金融通は圓滑に
日銀結城總裁の訓示

臺灣紡績會社
設立認可される模樣

臺灣取引所問題で
一覽事務官上京

世紀の除夜 (11)
北村小松作　都竹伸一畫

株式
開散乍ら聢り商況

內外商況（十日）

米穀局發表

一期作實收高發表
四百二十二萬三千石
前年より十九萬二千石の增收

國債應募者
一億心防諜報國

菊元

東亞企業株式會社
臺北市末廣町一ノ二
電話二〇八八番　振替臺灣九一八〇番
營業部　土地建物仲介管理　物品賣買　電話賣買管理　商品券債券賣買　金融仲介　內外各種貿易
企業部　土地開拓　建築　有利事業投資
代理部　火災保險　生命保險　委託販賣

デルビーは慢性胃腸藥

性病科　永吉醫院　新起町一ノ七　電二六五〇番

清酒　白鶴

畏し高松宮殿下台臨
全國社會事業大會開く
三日間に亙り審議

【東京十日發同盟】十日から二日間に亙つて開かれる第二十八回全國社會事業大會は野生省並に中央社會事業協會主催の下に十日午前九時から日比谷公會堂で開會式を擧行した、畏くも高松宮殿下の台臨を仰ぎ、近衛首相、本間厚生相、風見内相、金光内閣參議、安井内務次官、藤井大日本婦人會副會長、小泉厚生次官、吉田社會局長官、竹下社會事業協會理事長、官民關係者二千餘名が參集した、開會に先立ち高松宮殿下には御會釋あらせられ、次いで

（第三種郵便物認可）　第一万四千五百七十八號　臺灣日日新報　昭和十五年十月十一日（金曜日）　（四）

臺日各地綜合版

武勳を語る諸勇士
きのふ嘉義で座談會

【嘉義電話】嘉義市では銃後奉公會主催の聖戰完遂第四日目の十日午後七時より公會堂に於て日獨伊三國同盟と今次事變並びその前後に於ける武勳を物語つて貰ふ座談會を開催したが、定刻前から場内は滿員の盛況を呈し、一般に感銘を與へた

【嘉義電話】嘉義市に於ける銃後奉公武勳を物語つて貰ふ座談會は、第四日目の十日午後七時より公會堂に於て開催されたが、定刻前から場内は滿員の盛況を呈し、一般に感銘を與へた

【嘉義電話】嘉義市では銃後奉公聖戰完遂第四日目の十日午後七時より公會堂に於て日獨伊三國同盟と今次事變並びその前後に於ける武勳を物語つて貰ふ座談會を開催した